

推進項目	計画 (PLAN)		行動 (DO)	評価 (CHECK)	改善 (ACTION)
	令和2年度事業(予算額)	事業内容及び課題等	当該年度事業の現況	スポーツ推進審議委員会の意見	令和3年度予算要求に向けて
(1) スポーツツーリズムの推進	○ 酒田つや姫ハーフマラソン大会実行委員会負担金 (13,000千円) 前年比:同額	・名称変更、コース変更(一部) ・市外、県外からの参加者に、「酒田の魅力」をどのように伝えるか。 ・スポーツボランティアの育成・支援が課題。 ・toto助成(8,000千円)がなくなった場合の大会開催のあり方について検討。	・新型コロナウイルスの影響により中止。 ・7月上旬に大会中止を決定し、参加者全員(345名)に参加料を全額返金。	・酒田市をPRしていくためにも必要な大会である。 ・スポーツツーリズムを強化し、酒田市全体が盛り上がる大会になることを期待する。 ・参加者の自由度が高いので、より幅広い年齢層が参加できるように工夫すべき。 ・ボランティアや交通規制等、適正規模を確認しながら開催するべき。ボランティアをどのように運営するのか、議論が必要。充実した大会にすべき。 ・参加者の中には、魅力がないとの意見もある。参加費が高くて、魅力ある大会にするべき。	・新型コロナウイルス感染症対策経費を追加計上したうえで、予算の範囲内で計画していく。 ・酒田地区医師会、酒田市陸上競技協会等関係団体と意見交換をしながら、安全安心な大会実施に向けて準備を進めていく。 ・参加者が魅力を感じてエントリーしたくなる1つの取り組みとして、大会記念Tシャツのデザインを検討していく。
(2) スポーツを通じた地域コミュニティの維持・再生	○ 巡回駅伝競走大会実行委員会負担金 (380千円) 前年比:20千円 減	・R1参加チーム 1部17チーム 2部17チーム。参加者341人 ・R1より午前コースのみに変更。 ・陸上競技協会が実施主体から外れることで、審判等各地区の協力が必須となる。	・大会開催の可否を判断するため、実行委員会前に各地区体育振興会及び昨年度参加の2部チームへ参加意向調査を実施(1部10地区、2部11チーム参加)。 ・新型コロナウイルスの影響により大会中止を実行委員会決定。来年度大会に向けて意見を聴取(9/7)。	・ボランティアをどのように運営するのか、議論が必要。 ・陸上競技協会が外れた分、今までどおりから、柔軟な改善も必要。 ・課題等を踏まえ、事業の手法を見直し検討する必要あり。 ・審判や中継所役員の確保、コースの検証が必要。参加者等のモラルが低下している。	・新型コロナウイルス感染症対策だけではなく、コース上の安全確保等、関係団体と連携して課題を解決していく。 ・酒田市陸上競技協会の協力なしで大会運営することになったため、体育振興会と協力しながら、危険箇所を避けるコース設定及び中継所の運営等早い段階から準備を進めていく。
(3) ホストタウン登録におけるニュージーランドとの交流	○ 東京2020オリンピック聖火リレー開催事業 (5,274千円) ※うち、山形県実行委員会への負担金 (4,525千円)	・R1.3月～福島県からスタートした聖火リレーが6/8に酒田市で開催される。日和山公園から飯森山公園までのルート。	・「新型コロナウイルス」の影響により中止。2021年に延期。 ・2021年の日程としては、3月27日に福島県出発(121日間)。山形県通過は2021年6月6日、7日(酒田市は6/7)。		・R2年度以上の市町村負担(財政負担・人的負担等)は受け入れられない旨、県実行委員会へ継続して伝えていく。 ・市単独で開催するミニセレブレーションについて、中止も含めてあり方を検討していく。
	▽ホストタウン推進協議会	・「おしんレース」にNZの若手選手を招待し、小中学生や市民とのスポーツ交流を図る。 ・スポーツ部門に限らず、レガシーとしてどのように活かすか要検討。	・2020東京オリパラ延期により、ニュージーランドのトライアスロンチームの酒田市での事前キャンプも延期(2021年)	・市民への周知が弱いので、検討するべき。 ・他課や他団体と連携して取り組むことで、市全体の盛り上がりにつながる。 ・課題をクリアすべく、事業の見直しを検討する必要がある。 ・市民へ、ホストタウンとしてのPRが必要。	・ホストタウン推進協議会(交流観光課)と連携を図りながら、市民への周知及び2020東京オリパラ、ホストタウンの活動PRを実施していく。

【目標数値】

酒田つや姫ハーフマラソン大会・みなと酒田トライアスロンおしんレース大会
 における交流人口(市外・県外) ⇒ 1,600人 (R01:1518人)
 (H31:1415人)